



1

## はじめに

### 特別支援教育制度になって15年

「インクルーシブ教育システム」の推進や合理的配慮の提供など新しい(?)言葉が次々と登場したが、子どもにどのような利益がもたらされたのか？

「一人ひとりの教育的ニーズに応じる」ためにとの言葉の元で「障害」の種類と程度による「支援の必要な子」が急増している

2022日本重複障害研究会フォーラム資料 眞城知己(関西学院大学)

2

2

だけでなく、ジェンダー、年齢、居住地、貧困、ハンディキャップ、民族性、先住民性、言語、宗教、移民や難民という立場、性的指向や性別、性表現、投機経験、信念、態度といった理由で被害を被っている。COVID-19のパンデミックによってさらに示されているように、ニーズは多様で多岐にわたることを考慮していないのは、システム上の欠陥である。また、個別を求め、正常とは何かを規定し、それと異なる規範とみなしているのは、社会と文化に協定しない、特別なニーズという概念を拒絶し、参加と学びへの障壁という極端に置き換えるべきである。

**インクルージョンとはプロセスである。**インクルージョン教育は、社会的包摂という目標の達成に貢献するプロセスである。公平な教育を定義するには「平等」と「公平」の区別が必要である。平等とは物事の状態（何が）であり、インプットやアウトプットや成果（何が）の結果を指す。一方、公平とはプロセス（どのように）であり、平等の担保を目的とした行動である。プロセスとはインクルージョン教育を定義することはあまり強硬である。本レポートにおいては、インクルージョンとは必ずしも、多様性を受け入れ得る環境を高める行動のことであり、個人へのリソースやサポートを必要とする場合や可能性が取り除かれるべきであるという信念に根ざしたものである。しかし、インクルージョンの結果、CRPDや一般の意見第4号はそれらの確に定着することを放棄している。これはおそれているためである。

**結果としての教育におけるインクルージョン:すべての人への教育から始める**

**貧困と不平等は大きな制約である。** 世界の貧困は特にアジアで前年より悪化したといわれ、いまだに大人10人のうち1人が、子ども10人のうち5人が、また、サハラ以南のアフリカにいたっては子ども10人のうち5人が貧困状態に置かれている。所得格差は世界の大部分で拡大しており、縮小していた場合でも、国間および国内において貧困がない国と並ぶ水準である。人間開発における重要な成果の分配もまた、不均等に行われている。SDの経済所得および中所得国においては、経済所得下位20%の5歳以下の子どもたちの41%が栄養未達状態にあるが、この割合は上位20%の2倍を超えており、教育の恩恵を受ける機会が著しく狭まっている。

2022日本重複障害教育研究会フォーラム資料 眞城知己(関西学院大学)

**UNESCOによる世界の教育問題のモニタリングレポート Inclusion and Education 2020**

インクルージョン教育を社会的包摂という目標達成に貢献するプロセスとして位置づけ

しかしながら、結果の様相への見解が多様なために定義ができないとしている

3

## はじめに

### 特別支援教育制度が制定されて15年

新しい制度や仕組みを適切に実践に反映させなくてはならないが、方法論しか意識していないと全体の方向を誤ってしまうリスクが高くなる

## 障害のある子どもに対する教育の基本理念と新しい制度や概念に関わる留意点を理解することが不可欠

2022日本重複障害教育研究会フォーラム資料 眞城知己(関西学院大学)

4

## 用語について

- インクルージョン(inclusion)の対語としてエクスクルージョン(exclusion: 排斥)が例示されることが多い

→ 辞書的には正しいが教育制度上は

- a. 一般教育制度の対象外(就学猶予・免除)
- b. 無期停学等による教育機会の制限

aは国連がインクルージョンについて述べる場合

bは従来からのexclusionの用法

2022日本重複障害研究会フォーラム資料 眞城知己(関西学院大学)

5

5

## 用語について

- すでに一般教育制度がすべての子どもに保障されている国の場合には教育制度上はインクルージョン(inclusion)の視点が教育制度に位置づけられていると解釈される

→ 障害者権利条約を批准した多くの国で教育法の条文改正等がなされなかった理由

では、対立概念もしくは葛藤概念は？

2022日本重複障害研究会フォーラム資料 眞城知己(関西学院大学)

6

6

たとえば

## 「インクルージョン」の対立概念は？

「排除(エクスクルージョン)」 ではなかったりする

日本のように基礎教育制度が整備されている国の場合(条件)には、  
「専門的対応」が対立概念

さらに近年ではinnovation との両立が議論

専門的対応が重視されるほど特定の属性保有者(限定対象者)だけを対象にした「場」に置かれる子どもが増加する構造が生じる

2022日本重複障害教育研究会フォーラム資料 眞城知己(関西学院大学)

7

7

## 「インクルージョン」の対立概念は？

すべての子どもを「同じ場」で教育するのがインクルージョン概念の本質ではない

しかし必要に応じて「専門的対応」の場に子どもを次々と措置するだけの流れはエクスクルージョンとなる

では どうすれば良いのか

⇒ 概念の本質を理解した上で個々の状況に応じた判断をして指導に携わること

2022日本重複障害教育研究会フォーラム資料 眞城知己(関西学院大学)

8

8

# インクルーシヴ教育

Inclusion 包含

教育的  
ニーズ

多様性

プロセス

インクルーシヴ教育の概念の基本構造を正確に表現した定義構造

**「個々の教育的ニーズの多様性を包含する範囲を拡大するプロセス」のこと**

真城(2011)インクルーシヴ教育、実験学校の構想  
2022日本重複障害研究会フォーラム資料 真城知己(関西学院大学)

Saegusa(2016)Teachers' misunderstanding the concept of inclusive education, Education Research, vol.9, no.3, pp.103-114.

9

## 近年の動向

- 国連ユネスコは、2010年代の後半から急速にセグリゲーション(分離)された教育の場の否定に舵を切り出した

背景は？

特別な教育の場における専門性は高い国もあるものの、そこに丸投げして通常学校や通常学級の改善が遅々として進まない状況が各国で報告されているため

2022日本重複障害研究会フォーラム資料 真城知己(関西学院大学)

10

## 日本での気になる傾向

- 日本でも「通常学級での授業についてこられない」ことを理由に「特別支援の対象に」との発想・取り扱いが拡大している



## 完全にレッドカード

こうした発想・取り扱いこそ、  
ユネスコが指摘する「差別」

2022日本重複障害研究会フォーラム資料 眞城知己(関西学院大学)

11

11

インクルージョンは既存の枠組みに  
特定の属性を持つ少数の人たちを  
「適応」させる考え方ではない

1980年代初頭にアメリカ合衆国に  
ノーマライゼーション概念を導入しようとした  
Wolfensbergerが同化主義批判を強く受けて  
代替案として Social Role Valorization の提案を  
するなどの混乱が生じたことと類似の問題が  
日本の学校で生じつつある・・・

2022日本重複障害研究会フォーラム資料 眞城知己(関西学院大学)

12

12

インクルージョンは既存の枠組みに特定の属性を持つ少数の人たちを「適応」させる考え方ではない

「通常学級での授業についてこられないなら支援学級や通級指導の対象に」という発想や「まわりは困っているのに本人はまるで困っていないと思っていない。自覚させて欲しい」と考える教員がいまだにいる

2022日本重複障害研究会フォーラム資料 眞城知己(関西学院大学)

13

13

インクルージョンは既存の枠組みに特定の属性を持つ少数の人たちを「適応」させる考え方ではない

本当にインクルーシヴ教育を進めるなら

「子どもを変える」のではなく

「学校の常識」を変えることが

必要となる

2022日本重複障害研究会フォーラム資料 眞城知己(関西学院大学)

14

14

「子どもを変える」のではなく  
「学校の常識」を変える



School Improvement 学校改善  
School Development 学校開発

世界的にはこの視点が先端を行くが  
いまの状況で教員に丸投げしたら  
崩壊する

2022日本重複障害研究会フォーラム資料 眞城知己(関西学院大学)

15

15

「子どもを変える」のではなく  
「学校の常識」を変える

大人だけでやろうとするのではなく  
子どもたちの力を借りよう

子どもたちの発想や行動が変わると  
学校は変わる

子どもたちと創る学校

2022日本重複障害研究会フォーラム資料 眞城知己(関西学院大学)

16

16



## 「子どもを変える」のではなく 「学校の常識」を変える

多様性を包含しようというのに  
「通常学校が標準」との発想に  
私たち自身が縛られているのでは？

2022日本重複障害研究会フォーラム資料 眞城知己(関西学院大学)

17

17

## 「子どもを変える」のではなく 「学校の常識」を変える

これまで私たちは必死に考え  
努力を重ねてきた

- ・通常学校にどうやって入学させてもらおうか
- ・通常学級でどうやって医療的ケアを提供してもらえるようにできるか などなど

そして「できない理由」をこれでもかという  
くらい聞かされてきた

2022日本重複障害研究会フォーラム資料 眞城知己(関西学院大学)

18

18

## 「子どもを変える」のではなく 「学校の常識」を変える

たとえば

通常学校にいかに通えるようにするか  
ではなく

特別支援学校に障害のない子が通えるように  
にする

☆現在の通常学校が標準という発想を変える

2022日本重複障害研究会フォーラム資料 眞城知己(関西学院大学)

19

19

## 日本でインクルージョンを進める ために考えるべき課題

- 「実質参加」の視点の欠如  
学級に「統合」されていても子どもの教育的  
ニーズが包含されていない状態
- 個の多様性が排除される環境  
「正しい答え」と「間違った答え」しかない環境  
「自分がどう考えたのか」が評価されない環境

「一人ひとりに応じた」という言葉が  
使われる割に多様性は包含されない

2022日本重複障害研究会フォーラム資料 眞城知己(関西学院大学)

20

20

## 多様性を包含するために

指導方法なども「正しいやり方」ばかりを追求するとむしろ柔軟さに欠け、子どもにとって排他的な環境を作ってしまうこともある。

「多様性を包含する」ことを可能とする道筋は幾通りもある



2022日本重複障害研究会フォーラム資料 眞城知己(関西学院大学)

21

21

## インクルーシブ教育の本質等について考えるために

石田祥代・是永かな子・眞城知己編  
『インクルーシブな学校をつくる』  
ミネルヴァ書房 2021年

第2章「インクルージョンの概念-学校との関連から-(pp.19-34)」

第10章「児童生徒の抱える課題とそのとらえ方(pp.133-147)」

第15章「子どもの教育と支援に携わるスペシャリストとして(pp.203-222)」




2022日本重複障害研究会フォーラム資料 眞城知己(関西学院大学)

22

22

## さいごに



**インクルーシヴ教育は必ずしも世界的に積極的に受け止められているわけではない**

理由:  
1) 基本概念をふまえず制度に取り込もうとする施策による誤解  
2) 「多様性の包含」は人類の永遠の未解決課題

**都合の良い解釈や適用**

**実は厳しいせめぎ合い**

インクルージョン概念はすでに理論的な限界が見えてきている  
概念的には永続できない可能性もある

2022日本重複障害研究会フォーラム資料 眞城知己(関西学院大学)


23

23

## インクルーシヴ教育の概念を用いるなら

1) 通常学校の「責任と役割の所在」を拡大すること  
2) 特別(支援)学校等を階層のない選択肢として位置づけること

学校教育制度で提供できることの範囲を示す(国の責任)  
通常・特別支援学校・学級で提供できることの範囲を示す(自治体の責任)  
他校種では提供できない高い質の実践の内容を示す(各学校の責任)  
自らが提供できる具体的な専門性を示す(各教師の責任)



こうして、国内で「教育的ニーズの多様性を包含できる範囲を広げる方向に進め続けよう」とすることを通じて、子どもたちの「実質参加の促進」を図りましょう

2022日本重複障害研究会フォーラム資料 眞城知己(関西学院大学)

24

24